

男女がともに輝くために

共に輝くみほの会
(美浦村女性行政推進協議会)

子育てママの暮らし方
働き方講座

「女性のライフステージに
合わせた子どもとの向き
合い方」に参加して

待井 礼子

この講座は平成27年度ライフプランニング支援事業の一つで、9月8日に茨城県鹿行生涯学習センター・茨城県女性プラザにて行われました。講師の安のり氏は、親業訓練インストラクターでいらっしやいます。

《親業講座資料より》

◎「親業」とは何でしょう？

コミュニケーションをベースとした子育て方法です。従来の子育ては「子どもがいかにか育つか」と子どもの方に重点がおかれてきまし

た。親業は「子どもが育つ上で親がいかに関わるか」という親の側に焦点を当てて子育てを見直していきます。

◎親としての役割とは？

親業訓練法の創案者、臨床心理学者のトマス・ゴードン博士はこのように伝えていきます。

『ひとりの人間を生み、養い、社会的に一人前になるまで育てる』



親業講座は、講師の安のり子氏の息子さんとの実体験を交えつつ、乳児期から老年期までの特徴的な気持ちの表し方の講義から入り、そのステージごとにどう受け止めるべきかを丁寧にお話し下さいました。

私が特に共感を得たのは、子どもが話すことに対して親は見聞や結論を言うのではなく、話したことをそのまま繰り返すことが必要だということ。例えば「転んでひざが痛い」と言う子どもに「走るからよ。落ち着きなさい。」と返

すと、子供は叱られるからもう話すのはよそうと思ひ、あまり学校でのことは話さなくなりません。そんなとき「そう、転んだのね。ひざが痛いんだ。辛いね。」と話すごことによって、共感つまり分かってくれたと感じ、意思が伝わり安心感につながるのでそうです。

また、頼んだことが出来たとき「えらいね」「すごいね」と返すと評価を期待するようになるので、「ありがとう」「助かった」と返す方が、やって当たり前ではなく感謝する気持ちが伝わるということでした。

私自身も子どもが自ら考えて行動するまで「信じて待つ」ことが出来ずに自分の意見を押し付けていたことがあったと講座に参加して感じました。最後にグループ別に「親の役割」について話し合うワークショップで考えさせられながらも楽しく参加交流ができました。



みほ文芸

正調俚謡 日和吟社 折句「旅・行」病句禁

旅は極楽心の垢を流す馬頭の野天風呂

酸いも甘いも噛み分け夫婦旅は無口の紅葉狩り

夫婦仲良く寄り添いながら絆深めて老いの旅

旅の帰りを待ってる「はあば」孫の笑顔が駆けて来る

旅の爆買い中国人に痛し痒しの観光地

俚謡仲間と愉快な旅は秋の栃木路馬頭の湯

此処は宛ら極楽浄土錦彩なす京の旅

久しぶりねと元気で会えた笑顔駆け寄る古希の旅

祖国捨てたが行く宛も無い僕は難民家なき子

空の果てまで綾なす紅葉和む二人の旅の宿

海の幸より山菜料理秋を味わう旅の宿

秋の良き日に温泉旅行楽し思いで又一つ

たった一度を旅した写真亡母のあの日が走馬灯

秋を観に来た老人会の歌の花咲くバスの旅

旅で芽生えたほのかな想い粋な台詞を別れ時

旅の楽しみ食事とお風呂友と連れ立ち憂さ晴らし

母のぬくもり思い出さがし一人至福の旅支度

見事登った十六夜の月写る二人は月旅行

十月の俳句 (題 当季雑詠)

四万の秋せせらぎの音夜もすがら

名月を知らせる便り留守電に

身に入むやえんびつ書きの亡母の文

御嶽の噴火一年紅葉燃ゆ

秋天を見上懐かし万国旗

野遊びの子等の声無し赤のまま

二度聞きも気づかぬふりや秋の風

栗拾ふ余生の夢を拾うこと

さりげなく子の労りは風邪ひくな

月の照りゆらゆら葉うら虫の宿

葦原や休耕田にも草紅葉

飯塚筑風

塚本夏雲

伊藤葉子

篠原美千代

田島草実

高橋一歩

小池きよし

門脇悠美

山崎笑子

下村松陽

石戸葎華

渡辺希代

上野八千代

本橋清湖

長谷川悦子

沼寄朋香

小蘭江久美

木村幸子

(五十首順)

青野安佐子

石毛恵美子

伊藤八千帆

木澤はしめ

高柳幸子

田島早苗

中島輝子

松葉よしの

松本秀子

宮崎きみ枝

矢原はつひ